

菅自牧齋

かん・じぼくさい

儒者

経歴

生:文化7年(1810年)

没:万延元年(1860年)7月3日、享年51歳、神辺網付谷(あみづけたに)の墓所に葬る

文政10年(1827年)8月	17歳	菅茶山の養子となり廉塾を継ぐ
—	—	頼山陽、篠崎小竹らに師事
天保8年(1837年)	27歳	弘道館句読師
安政2年(1855年)	45歳	誠之館文学教授

生い立ちと学業、業績

文化7年(1810年)に菅萬年の長子(菅茶山の甥)として生れた。通称は菅三、のち三郎。字は昭叔。諱は惟繩。号が自牧齋、良庵、懶庵、蘭庵。

京に上り、頼山陽、篠崎小竹、頼杏坪、近藤篤山らに師事した。

文政10年(1827年)8月、菅茶山の養子となり、廉塾を継いだ。天保8年(1837年)、弘道館句読師に任じた。また安政2年(1855年)誠之館文学教授となる。

門田朴斎の五男普賢を養子嗣とした。

万延元年(1860年)7月3日、享年51歳。神辺網付谷に葬る。墓碣銘は関藤藤陰。(出典1)～(出典5)

出典1:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、79頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典2:『福山藩の教育と沿革史』、152頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典3:『郷賢録』、1頁、福田祿太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典4:『福山藩の文人誌』、92頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典5:『福山の今昔』、160頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

関連情報1:『福山学生会雑誌(第50号)』、附8頁、関藤成章、福山学生会事務所編刊、大正6年1月1日

2008年7月31日追加●2008年8月1日更新:本文●2010年3月19日更新:経歴・出典●